

長野ささら獅子舞調査記録



2004年9月19日

東京芸術大学日本音楽史ゼミ

目次

1. 関東の三匹獅子舞……………1

2. 長野 ささら獅子舞の概要…3

3. 獅子舞の構成……………6

4. 獅子舞の楽器……………23

5. 唱歌……………25

6. 文献表……………27

・調査を終えて

・あとがき

東京芸術大学附属図書館



a10401628333b

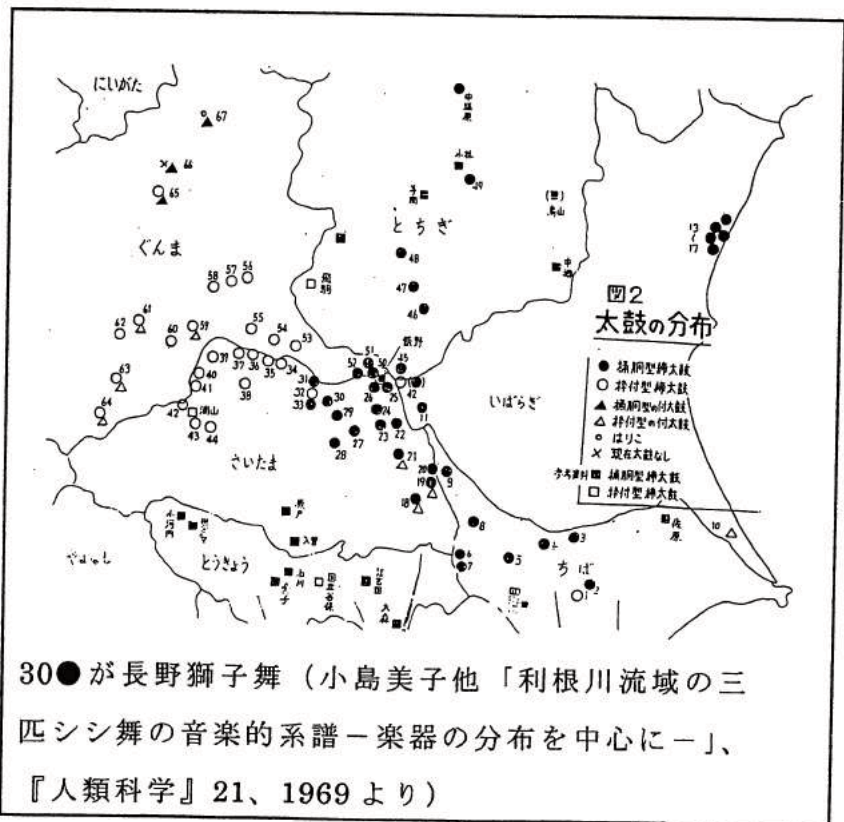
1168.8
V16

1. 関東の三匹獅子舞

獅子舞という芸能は、二つに大別される。一つは大陸から伝来した伎楽の二人立ちの獅子舞を発端として、日本各地に伝播している獅子舞である。他の一つは一人立ちの獅子舞や鹿踊である。また、一人立ちの獅子舞はごく一部を除き、東日本に分布し、その一方で風流の太鼓踊は西日本に分布している。これは、太鼓踊が門付けの獅子舞を取り入れて、その一方で鹿に対する原始的な信仰に基づく踊りと結びついて、一人立ちの獅子舞が誕生したと考えられている。

三匹獅子舞は、一人立ちの獅子舞の系統であり、一人立ちの獅子役三人それぞれが獅子頭をかぶり、胸や腰に抱いた太鼓を桴で打ちながら舞を演ずる芸能であり、多くの例では、この三人の他にササラを鳴らす道化役・花笠も加わる。また、祈祷、厄払い、供養などの信仰儀礼としての性格があり、その成立と伝播には宗教者・陰陽師や専門芸能者が関与した可能性が言われている。

三匹獅子舞の分布は関東から東北・北海道に広がるが、とくに関東地方に多い。その関東では、群馬県館林市と埼玉県北埼玉郡南河原村を結ぶ線を境にして、獅子役の太鼓が西では杵付式であり、東では桶胴式となっているとほぼいえる(右図)。今回調査させていただいた長野獅子舞のある行田市はこの境界付近であるが、太鼓は桶胴式を用いている。また、囃子には、6孔か7孔の篠笛を用い、篠



笛の関東での分布には規則性は見られない。長野獅子舞では6指孔の手作り篠笛を用いていた。また、ササラは、関東ではほとんどスリザサラを用いて、ビンザサラの例は非常に少ない。ただし、今もササラを用いる三匹獅子舞は少なく、そのようにササラを用いない三匹獅子舞を「ササラ」と呼び、実際にササラを用いる三匹獅子舞は「ササラ」とは呼んでいない。これは芸能名としてのササラと楽器名としてのササラを混同しない

ようにするといわれている。なお、三匹獅子舞に見られる花笠は、神の依代と考えられ、風流の太鼓踊の背に見られるヒモロギが依代であるのと同様である。そこで、この花笠役は獅子役と同じく重要視され、花笠役のスリザサラと獅子に注目して三匹獅子舞をササラ獅子舞と呼んだほうが本質を表している。したがって、芸能名自体に「ササラ」が付くのは自然なことであると考えられている。

(鳥谷部輝彦)

2. 長野 ささら獅子舞の概要

◆長野獅子舞の起源

江戸時代の中期、忍城主阿部豊後守正喬（4代江戸幕府老中）の治世下で正徳3年（1713年）、旧長野村の人々によって村社久伊豆神社祭礼の日に、五穀豊穰無病息災を祈願して奉納する形で保存会が継承。

【出典：配られた短冊】→短冊については後述

◆祭礼の日程

- ・ 9月18日（土）
 - 午後6：00 献幣使巡行（一桜→久伊豆神社）
 - 午後7：00 久伊豆神社奉納
- ・ 9月19日（日）
 - 午後2：00 長久寺奉納
 - 午後4：00 東行田駅前
 - 午後6：30 一桜広場



→本来は9月の18・19日に行われるしきたりであったが、参加できる人に制限がでてくるため実は2、3年前からそれに近い土日に行われるようになった。今年は偶然もとの日付に当たった。

◆使用楽器

- ・ 笛（手作り・6孔）／ 太鼓（手作り・枠なし締め太鼓）

◆練習

- ・ 直前の2週間くらい火曜・金曜日に公民館で練習をしている。

◆終戦前まで

- ・ ささらの前に“棒つかい”というものがあつた。（獅子舞とペア）
- ・ 舞い方は、「獅子方」と「棒つかい方」にわかれていた。世襲制ではないようである。
- ・ 進駐軍が来たときに、棒つかいの刀をとられてしまった。

◆出演者・関係者

・舞手

期日	演目	面化	法眼	中獅子	後獅子	蛇
9/18 午後7時～	笹持ち	中村好宏 (45歳) 昭和33年生	長谷川貴彦 (27歳) 昭和52年生	吉田真 (27歳) 昭和52年生	島崎光司 (54歳) 昭和24年生	
9/19 午後2時～	鐘巻	中村好宏	高橋光雄 (47歳) 昭和31年生	吉田真	長谷川貴彦	島崎光司
午後4時～	花割り	小沢正行 (51歳) 昭和28年生	島崎光司	吉田真	中村好宏	
午後6時半～	鐘巻	小沢正行	吉田真	高橋光雄	長谷川貴彦	島崎光司

- ・笛師 —— 小沢善哉 (77歳) 昭和2年生
北岡勢一郎 (59歳) 昭和20年生
三田梨恵子 (28歳)
岡野真弓 (25歳)
横田亜紀子 (25歳)
- ・神の子(花持ち) —— 須田実咲 (12歳) / 岡田麻里 (11歳)
松村吏花子 (10歳) / 鷺美喜 (10歳)
- ・世話役 —— 山崎、南條、中村、清水

◆役柄

- ・面化：獅子をあやつる神。猿田彦命の化身。獅子をあやつるためのバチ(軍配)を持ち、面をつけて舞う。
- ・法眼：若い雄の獅子。蛇退治をする。角が長い。
- ・中獅子：若い雌の獅子。角が短い。
- ・後獅子：おじいちゃん獅子。角がねじれている。



◆神の子について

- ・花持ちとも言い、花がさを持つ役。
- ・小学生までの女の子
- ・昔は大人がやっていた。
(保存会ができた25年前より以前は、神の子も笛もすべて成人男子によっていた)

◆鐘巻について

- ・歌舞伎の「道成寺」が題材。
- ・昔は1時間くらいやっていた。→現在は短縮。30分と少しくらいである。

◆我空薬師（がっからやくし）のうた

- ・笛師などが獅子舞の時に歌う。

もりも　はやしも　せみのこえ
なりを　しずめて　うたのふしを　きけ

◆歌について

- ・以前は、長久寺には長久寺の、久伊豆神社には久伊豆神社の歌があった。現在では、我空薬師という薬師様のところでやっている歌が、全部の（寺の）歌を兼ねてしまっている。
- ・歌の歌詞だけはあるが、あっても、今の節まわしで歌をつけると、追いつかない。インタビューに回答してくれた小沢善哉さん（77歳）が覚えたときには、既に我空薬師の歌しか残っていなかったという。

◆笛について

- ・笛の先には和紙が入っており、水で濡らした棒でしめらせて音を調節。
（笛は個人管理）
- ・口唱歌は人によって違う→指をみて覚える。

◆短冊について

- ・獅子髪飾り（色紙）を取ってお守りとして神棚、玄関等に飾ったり、懐に入れておくと縁起がよく、災難を払ったり穀物の収穫がよくなったという言い伝えがあり、現在もその風習が残っている。
この髪飾りをお守りとして、短冊にして関係者・観客に配る。
- ・配られる短冊の表紙にこの獅子舞の起こり、髪飾りについての説明あり。

(河内暁子)

2004長野獅子舞

日時：2004年9月19日（日）晴れ☀

時間：14時～ 長久寺奉納、鐘巻

長久寺前

16時～ 花割り

東行田駅前



録音：重田絵美・柴田真希

写真撮影：鈴木亜紗子・河内暁子

ビデオ撮影：原納愛

AD：鳥谷部輝彦

採譜者：重田絵美・渡部桂子

楽譜作成：鈴木亜紗子

監修：樋口昭先生

※文章内では、面化●、法眼○A、中獅子○B、後獅子○C、

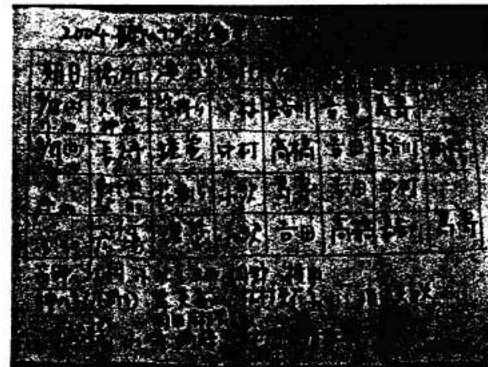
花持ち■、と表記する。

*😊演目：鐘巻

場所：長久寺前

〔演目前〕

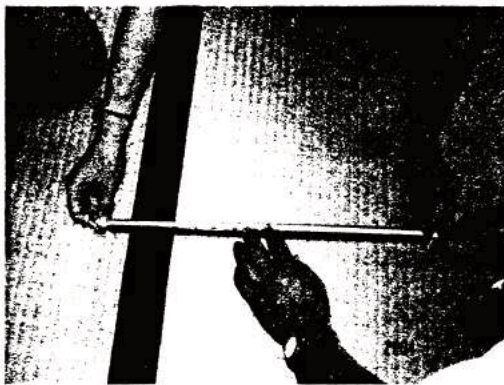
13:52	予定表確認
-------	-------



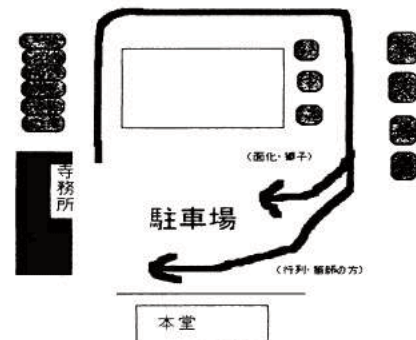
これからの予定。
横に写っているのはお守り。

かけもち演者の方、大変だと思いますが
頑張ってください☆

	笛の採寸。【採寸者：鈴木・柴田】
--	------------------



楽器の採寸もフィールドワークの一環です。 明るい笑顔で私たちを迎えてくれました。



さあ、準備が整いました。行列が始まります。

13:58	寺の周りを行列で歩く	【笛】道中くだり（6回繰り返す）
-------	------------	------------------



笛の音と掛け声が辺りに響きます。



行列が寺を一周し、戻ってきたところ。



♪道中くだり <譜例1>

採譜者：重田絵美

道中、くだり



笛師の皆さん。

♪すりだしの笛【おかざき】<譜例2>

採譜者：重田絵美

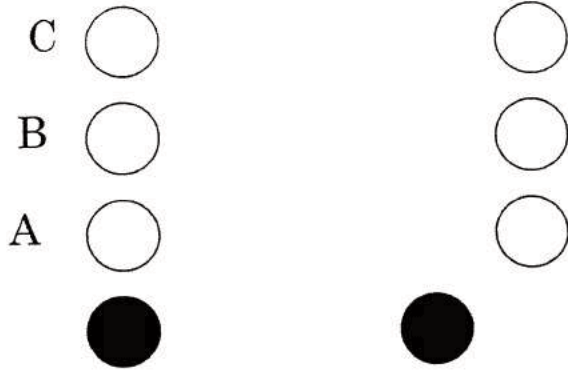
おかざきの笛「おかざき」



14:04

獅子舞開始

【配置の変化】

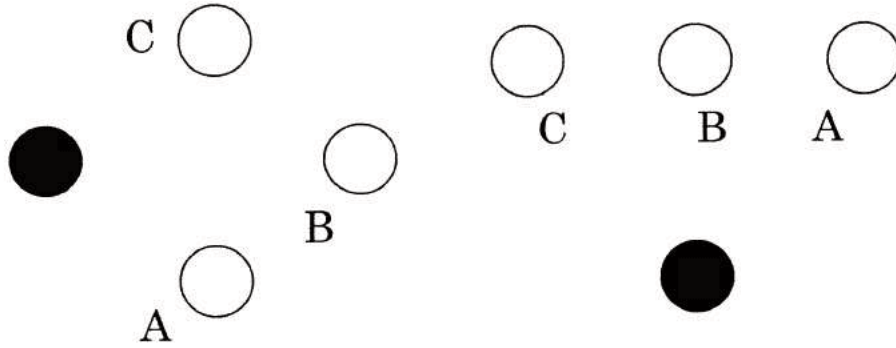


(長久寺側)



面化が獅子たちを導きます。

14:06



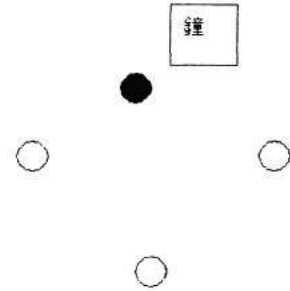


獅子たちの激しい動き。

14 : 08	【笛】 ささがかりの笛	【獅子】 次第に鐘に近づく
---------	-------------	---------------



(寺務所側)

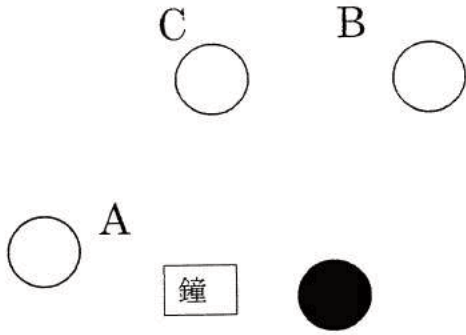


獅子と面化が少しずつ鐘にいる大蛇の方に近づいていきます。

♪ ささがかりの笛 < 譜例 3 >

採譜者：重田絵美

ささがかりの笛



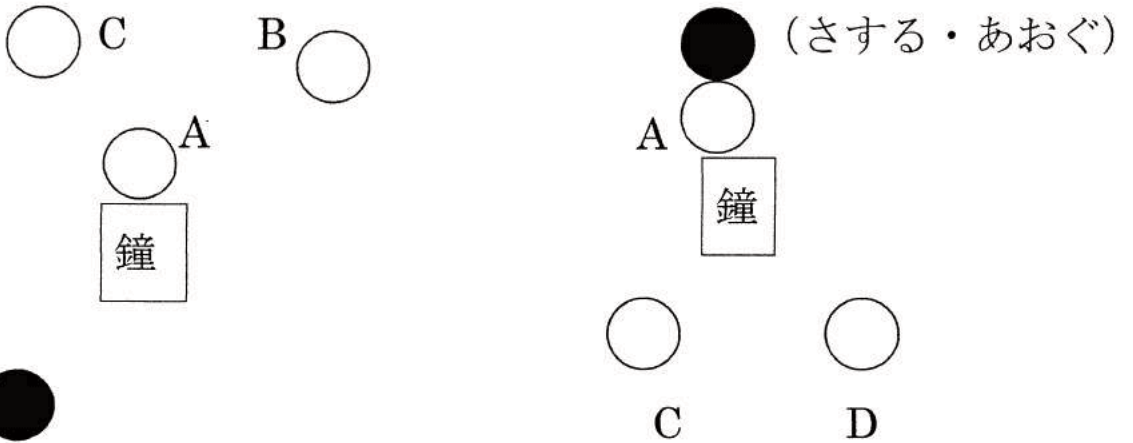
大蛇が火を放つ様子を花火で表現しています。

♪かねまきの笛 <譜例4>

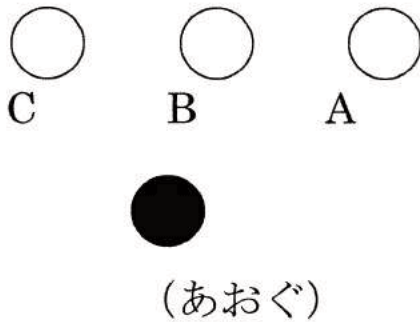
採譜者：重田絵美

かねまきの笛

14 : 18	面化大蛇に襲われる	
14 : 19	一匹の獅子がひざまづく 一匹の獅子が鐘に頭をつける	【獅子】 毒回っている 【獅子】 毒回っている
14 : 22	鐘退散 笛、調子が変わる	【笛】 ちらしの笛



14 : 24



法眼に毒が回っています。
 [鐘が去ったあと、ちらしの笛]



太鼓のふちを叩いています。

獅子の並ぶ順番は決まっています。

♪ ちらしの笛 < 譜例 5 >

採譜者：重田絵美

88

ちらしの笛 (2)

90

1 4 : 2 4	歌入る	【歌】 我空薬師の歌
-----------	-----	------------

♪ 我空薬師の歌 < 譜例 6 >

採譜者：渡部桂子

我空薬師の歌

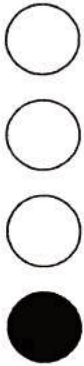
1 4 : 2 5

演目終了

【笛】たち笛

♪たち笛 <譜例7>

採譜者：重田絵美



(最後の体型)



演者の皆さん、お疲れ様でした。

〔演目終了後〕

	お守りの配布、片付け 楽器の採寸（太鼓、ばち、笛） 【採寸者：鈴木、柴田、鳥谷部、重田、河内
--	--



後獅子、中獅子、法眼



携帯電話と大きさ比較。

笛はひとつひとつ手作りだそうです。



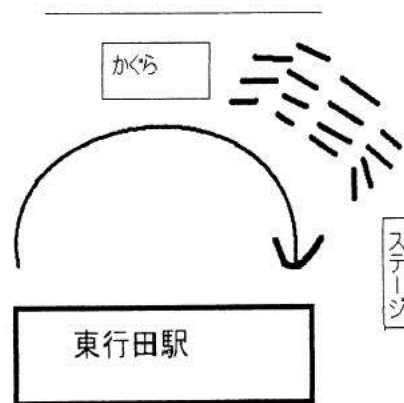
面化の仮面と軍配、そして太鼓をたたくばち。

*😊演目：花割り

場所：東行田駅前

[演目前]

16:05	場所移動、駅前での準備
-------	-------------



[演目] 現地時間 16:06～16:33

16:06	行列	【笛】道中くだり
-------	----	----------



東行田駅前を一周します。

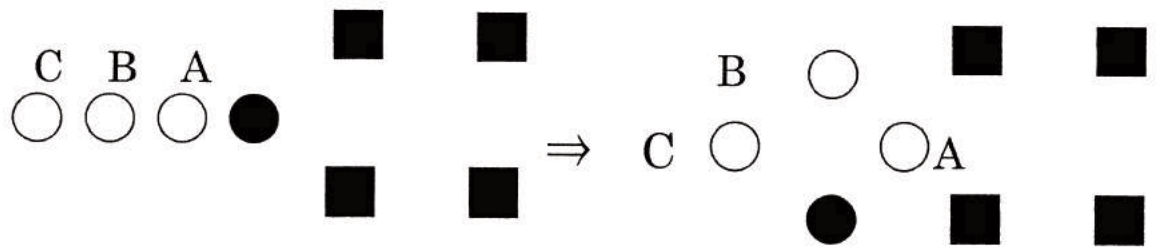
♪道中くだり

譜例1参照

16:09	花割り開始	【笛】 すりだしの笛
-------	-------	------------

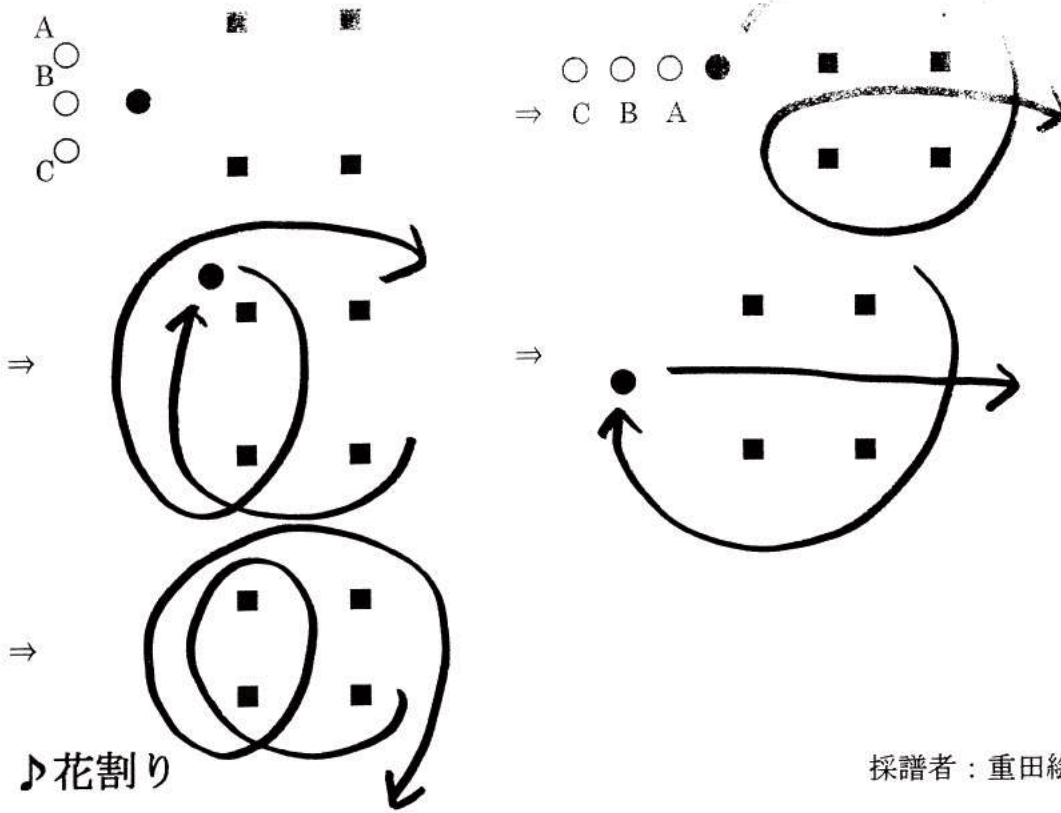


♪すりだしの笛 譜例2参照



16:13	笛、調子が変わる 獅子、花持ち所に移動	【笛】 ささがかり 【笛】 花割り
-------	------------------------	----------------------

♪ささがかりの笛 譜例3参照

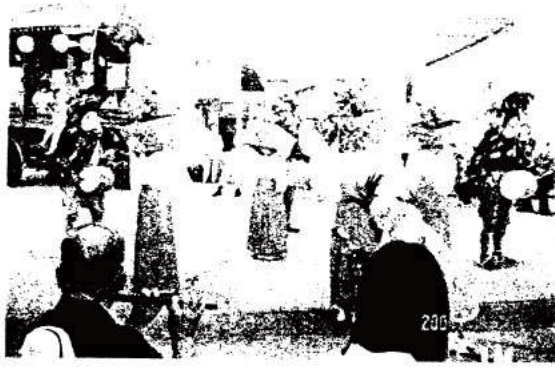


笛

尺八

笛

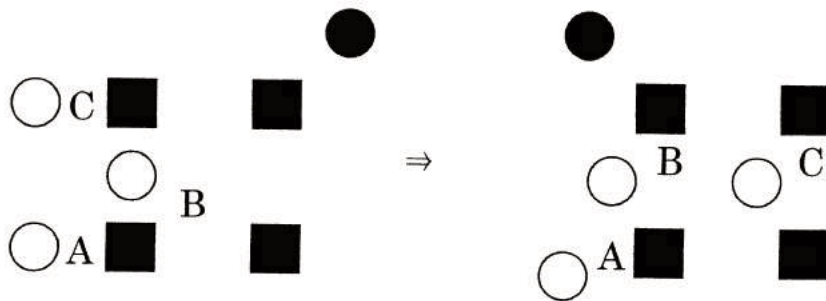
面化



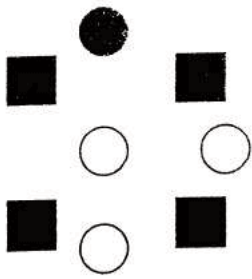
獅子の動きは花持ちの間を通る時にはゆっくりになります。



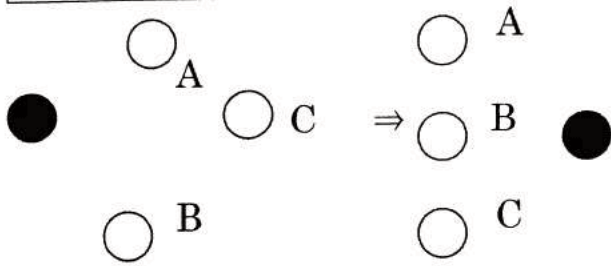
1 6 : 2 3	2匹の獅子が座る	
-----------	----------	--



1 6 : 2 6	動きが少なくなる	
-----------	----------	--



16 : 27	花持ち離れる	【笛】ちらしの笛
---------	--------	----------



♪ちらしの笛 譜例5参照

16 : 29	歌入る	【笛】たち笛
16 : 30	演目終了	

♪我空薬師の歌、たち笛 譜例6、7参照



演者の皆さん、お疲れ様でした。獅子舞のあとにはお守りが配られます。(原納愛)

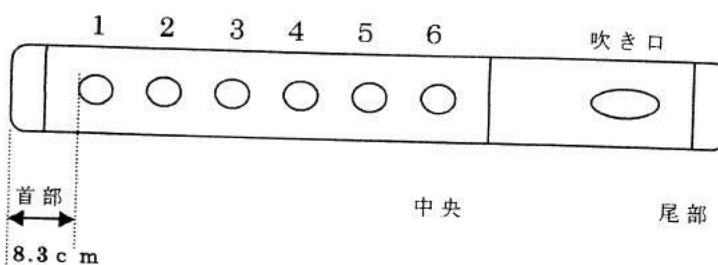
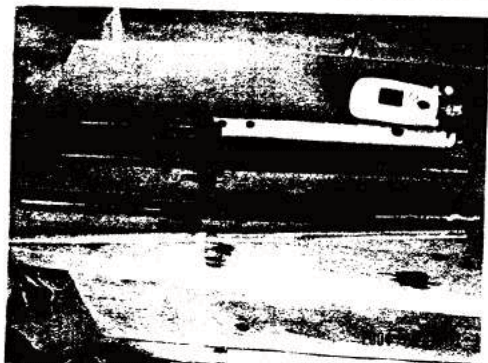
4. 獅子舞の楽器

【笛】

演奏者による手作りで、材料は篠竹。下図にあるように吹き口側に節がある。
6孔。首部¹に和紙が入っている。音高は第1孔を押さえて測定。口唱歌がある
旋律を覚える為には歌われていない。

単位：c m

No.	全長	1～6孔までの間隔	6孔か ら吹き 口まで	吹き口 から端 まで	太さ(円周) (尾→中央→ 吹)	音
1	44.3	8.3→11→13.7→16.6→19.4→ 22.4	15.2	5.1	6.9→7.1→ 7.2	fis
2	44.6	7.4→10.2→12.9→15.3→18.1 →21.5	14.5	6.8	6.1→6.6→ 7.0	fis
3	44.2	7.6→10.3→13.1→15.9→18.7 →21.5	14.6	6.2	6.4→6.8→ 7.0	fis

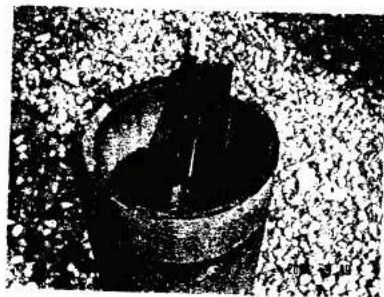


〔和紙をつく棒〕

音を出しやすくする為に水を張った桶に笛
を浸し、首部に向かって水を含ませた和紙
をこの棒でつく。

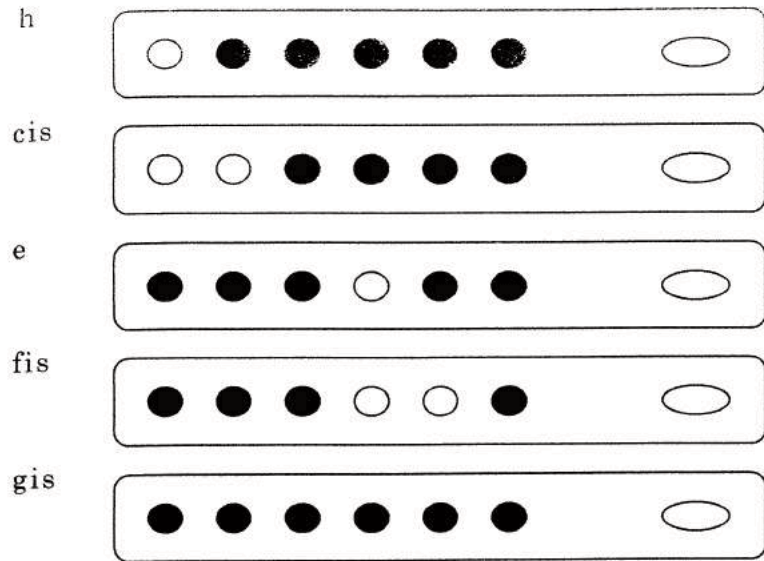
49.2 c m

直径 8×6 (m m)



¹首部、尾部の名称は望月太意之助その他「笛」、『音楽大事典』（東京：平凡社、1982年、第4巻 206
-2072頁。）による。

[指遣い]



【太鼓】

杵なし締め太鼓で胴はふくらみがない桶胴型である。獅子が腰につけ、両手に撥を持って皮の部分と杵を叩く。

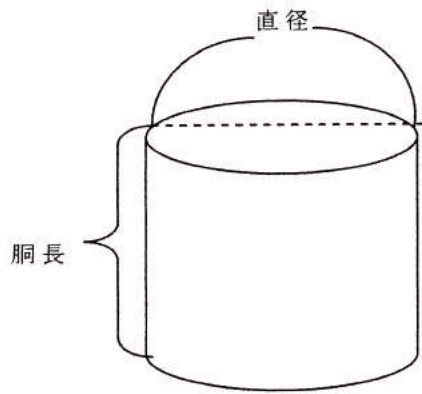
撥 単位：cm

長さ	外周
26.2	8.0
25.1	8.1
26.8	8.1
25.4	8.0



太鼓 単位：cm

No.	直径 (胴)	胴長
1	28	28
2	28	27.5
3	28	27.7



(柴田真希)

5. 唱歌

笛の唱歌

ここでは笛の唱歌の記録を載せる。笛師の小沢義哉さんへのインタビューによるのである。長野ささら獅子舞では、太鼓の唱歌は現在ないが、笛の唱歌は残っている。しかし小沢さんの話によると、現在笛の伝承や練習には、唱歌は用いないようである。理由の一つには、唱歌の歌詞が伝承する人によって変化し、異なっていくことがある。実際口で覚えるよりは、笛の師匠の前で、指で覚えてしまったほうが早いようだ。

以下は鐘巻と花割り、2演目の笛の主な構成部分の唱歌の歌詞をテープからおこし記載したものである。必要に応じて、小沢さんのコメント☞も載せている。

☆道中くだりの笛

あとーひゃーろひゃーひゃーい あひゃーりこーのひゃーろひゃー あとーひーとー
ひゃーらとー ひゃーろーとーひゃーらとー あひゃーろーとーひーひゃーらと と
ーほひーひーい (唱歌の歌詞)

☆すりだしの笛

おーかざーきーじょーろしよーい おーかざーきーじょーろしよーい おーかざーき
ーじょーろしよーはーよーいじょーろしよー

☞…おかざきの方から殿様がこっちに來た時のやつ(曲か?)が多少あるんじゃないかと思う。なんか、おかざきって言葉があるんですね。ただ文献があるわけでないから、ちょっと分かんないんだけど、どういうんだか、おかざき、おかざきっていうのは出るわけ。

☆ささがかりの笛

ひゃーひゃーろ おひゃーろひゃーひゃー あひゃーひゃーろ おひゃーろひゃーひ
ゃー とひーとと ひーととー あひゃーろひゃひゃーろーひゃーひゃーい とひゃ
ー とひゃーひゃーひゃーらと とひゃーろひゃーひゃー

☆かねまきの笛

ひひひひひひーとひー とーほほほーひ とーひゃーらとーはーとー ひーとひー
とーひゃーらとーはーとー あとーほーひーとーひゃーらとーは ひゃーひゃーろ
とひゃーらとーひーとと おーひーと おひ…

☞…段々そこから（最後の方）は分からなくなってきた

☆ちらしの笛

ーこの唱歌は歌って頂けなかった。

☞…これは長くはないけど、どんどん変わっていったから、口でいうよりは笛の方が楽。口でいったんじゃ、もう世代が違う。

これらの唱歌は実際の笛の旋律に、そのまま対応させることは出来ない。唱歌と実際の旋律の関係については、今回の調査では分からなかった。

唱歌の歌詞については、すりだしの笛の、おかざき女郎衆の歌詞以外は意味を持たない。

このように唱歌は存在しているが、実際の場合では機能していないため、今後伝承が絶える可能性は高いといえる。

(重田絵美)

6. 文献表

三匹獅子舞に関する記述を『民俗藝術』から列举した。

『民俗藝術』は、1928（昭和3）年に小寺融吉編集、地平社書房（東京）によって発行された月刊誌である（昭和6年7月の第四巻第四号から、北野博美編集、民俗藝術の会発行、東京・四海書房発売に変更）。日本各地に伝わる行事、祭、歌謡などについての記述をまとめたものである。本誌は、毎号中心となるテーマについて記述されており、特に「～号」（例えば「獅子舞号」）と表紙に謳っているものもある。また、行事報告を「諸国祭祀暦」として巻末に載せている。なお、1973（昭和48）年に国書刊行会より合本にて復刊された。

<三匹獅子舞についての記述>

- 「宇和島の八鹿踊」（第一巻 第二号 1928年2月）pp.86-88
- 横堀精一郎「秋田の盆の獅子踊」（第一巻 第七号 1928年7月）pp.28-30
- 横田孝平「越後小千谷の獅子舞」（第一巻 第十号 1928年10月）pp.71-72
- 藤井襄「武蔵馬室村の獅子舞」（第一巻 第十号 1928年10月）pp.72-75
- 金子徳左衛門「武蔵皆野村の獅子舞」（第一巻 第十号 1928年10月）pp.75-76
- 高橋勝利「諸国祭祀暦」（第三巻 第七号 1930年7月）p.83
- 水島長太郎「佐渡のお祭風俗 獅子」（第三巻 第八号 1930年8月）pp.75-77
- 高瀬源一「下野花園の芦蛙獅子 — 安蘇郡旗川村花岡の厄除け行事 —」（第三巻 第九号 1930年9月）pp.48-54
- 上田市役所編「獅子をどり — 長野県小縣郡上田市 —」（第三巻 第十一号 1930年11月）pp.5-9
- 西角井正慶ほか「東北行 遠野と盛岡と」（第五巻 第一号 1932年4月）pp.56-59

- ◆第三巻 第一号 （獅子舞号） 1930年1月
- 糊澤龍吉「信濃上田の獅子舞」pp.42-62
- 青柳秀夫「佐渡小木港の小獅子舞」pp.89-93
- 青池竹次「相模高座郡大島の獅子舞」pp.95-96
- 青池竹次「武蔵驚神社の獅子舞」pp.97-100
- 村田鈴城「武蔵元八王子の獅子舞」pp.105-110
- 村上静文「元八王子の獅子舞所見」pp.110-114
- 大亦詮一郎・北野博美（記事）、宮尾しげを（挿絵）「武蔵赤塚村徳丸の獅子舞」pp.115

- 西角井正慶「武蔵川越の籠獅子舞」 pp.123-127
○大亦詮一郎・北野博美（記事）、図師嘉彦・尾形迪吉（挿絵）「武蔵三峰の獅子舞」 pp.128

- 136

- 相澤正道「武蔵鷲宮の獅子舞」 p.137
○早川孝太郎「武蔵血洗島諏訪神社の獅子舞」 pp.138-141
○平野亥一「上野藤原の獅子舞歌」 pp.142-146
○泉漾太郎「下野塩原の獅子舞歌」 pp.147-154
○中山柯山「下野の関白獅子」 pp.155-157
○能登十六「上総君津郡佐貫の鞆鼓踊」 p.157
○本田安次「岩代安達郡小濱町の獅子舞」 pp.158-168
○齋藤忠「陸前地方のしし踊とけんばい踊と」 pp.169-176
○中山太郎「獅子舞漫考」 pp.205-216
○越原富雄「御頭神事の記事から」 pp.221-225
○竹内勝太郎「獅子舞の演劇史意義」 pp.226-232
○小寺融吉「固有の獅子と輸入の獅子」 pp.233-242
○柳田國男「獅子舞考」 pp.243-261

(星野厚子)

☆その他の文献

大村達郎 1997 「三匹獅子舞主要研究文献目録」 『民俗芸能研究』25 pp.90-112

☆「三匹獅子舞主要研究文献目録」以降の文献

愛川町教育委員会 1997 『三増の獅子舞』

河野弘 1990 「いばらきの三匹獅子舞」 『常陸の歴史』6 pp.64-74

笹原亮二 1998 「三匹獅子舞研究の自分史－三匹獅子舞の現地と調査研究の実践を巡って－」 『神奈川地域史研究』16 pp.53-72

笹原亮二 2001 「三匹獅子舞の分布」 『国立民族学博物館研究報告』26-2 pp.171-236

笹原亮二 2003 『三匹獅子舞の研究』 京都 思文閣出版

台町自治会台町獅子舞保存会 1997 『埼玉県指定無形文化財 台町獅子舞戦後五十周年記念靖国神社奉納舞記念誌』

中里正楽 1997 『獅子頭新調への軌跡』

新潟県教育委員会 1997 『新潟県の民俗芸能－新潟県民俗芸能緊急調査報告書』

畠山豊 1997 「村富神社の獅子頭」 相模原市教育委員会編 『平成八年度 相模原市文化財年報』

松浦靖子 2000 『津軽の獅子舞獅子踊』 弘前 北方新社

(鳥谷部輝彦)

調査を終えて

九月半ばに行われた三匹獅子舞のフィールドワークには止むを得ず参加できなかったが、その集大成であるこの調査記録の作成にあたり、当日の様子が参加者の様々な資料と、その後の考察によって次第に推し測ることができた。フィールドワークに関する知識が未熟であったが、必要な情報や記録方法、そのまとめ方に至るまで、新たに沢山のことを学ぶよい機会を与えられた。本稿では、参考文献として、三匹獅子舞に関する記述のリストアップを担当したが、例えば隣接した地域でも、その土地ごとにそれぞれの特徴を持っており、今までに沢山の観衆や研究者を魅了してきたことが伺える。演者の方々においては、伝統として後世に伝えるという役割を担いながらも、変わらぬ様式を守ることに對して、時の移り変わりによって生じる様々な難しさを感じているのではないかと察し得る。今度は実際に足を運び、周囲の環境をはじめとして、より身近で直接的に調査できることを望んでいる。

(星野厚子)

インタビュー、初の採譜を通して、獅子舞の構成の奥深さを知りました。今回は一回の調査で、この獅子舞の骨組みを浮き上がらせようという試みだったので、御答え戴いた資料が非常に参考になり、大変感謝しております。採譜の作業中は、演目全体の構成、盛り上がり、聴き所の部分がつかめてきて、更に面白さを感じました。獅子のユニークな振舞は、見ていてとても楽しく、心が温まるものです。特に鐘巻のストーリー展開には興味を持ちました。御協力、ありがとうございました。

(重田絵美)

私は今回採譜という作業をしてみて、いかにそれが難しいものかが良く分かりました。やはり、日本の民俗芸能の音楽を西洋の五線譜によって書き表わすのには限界があります。細部の音やテンポのゆれ、拍感、そして拍子のとり方など、旋律・リズム・音価すべてにおいてできる限り忠実に採譜するのにとても苦労しました。そこに、西洋音楽との本質的な違いを改めて感じる事となりました。非常に良い経験となりました。

(渡部桂子)

厳密に調査をしなければならないところが大変だった。写真は色々こだわって撮ったつもりなのに、被写体が切れている写真がいっぱいあってがっかりした。編集作業ではデジカメや楽譜作成ソフトを駆使したのでパソコンさまさまだったが、おかげで見やすい資料ができたと思う。

(鈴木亜紗子)

フィールドワークに伺うまでは、獅子舞についてほとんど何も知りませんでした。生活の中で昔から演じ続けられている芸能も見た事はありませんでした。しかし、フィールドワークに伺って、実際に見せていただいたことで、獅子舞が皆様の生活の中に昔から生きてきたことを知りました。編集作業を通して、フィールドワークで聴いた笛や太鼓を改めて見直して見る事ができました。この作業を続けることができたのも、フィールドワークで獅子舞に対する興味関心が湧いてきたからだと思います。本当にありがとうございました。

(柴田真希)

私にとって今回の長野獅子舞が初めてのフィールドワーク体験でした。私はビデオを担当し、手ぶれと戦いながら獅子舞のどこに注目して撮ったらいいかを試行錯誤しました。編集は構成を担当し、ビデオを何回も繰り返しみたり、写真を参考にしたりして獅子舞の分析をすすめました。おかげで笛の旋律

はほとんど覚えるまでになりました。1つの芸能をこのような形でまとめることができたことはとても幸運だと思います。助言をいただいた先生がたと、現地の方々に快く、そして温かく迎えていただいたことを感謝いたします。

(原納愛)

本冊ができるまでには僕は学部3年生にまかせっきりでしたが、とても活発に動いてくれました。当初、風流の獅子舞のフィールドに行くことになった時、僕にとってそれは専門外なので、円滑な調査のためにはどのような行動をしたらいいかと少し迷っていました。ところが、現地へ行ってみると長久寺に集まった人たちはとても親切にご協力してくださいまして、これはおそらく、現地の人が調査慣れしているためと、今回の調査に大学の先生が3人も同行されたためだと思います。ただ、普通は“一見さん”にはこんな対応はないでしょう。

それはそうとして、学部3年生はフィールドでも積極的に、時にはにぎやかに、調査を進めていて、感心させられました。調査結果をまとめる作業では、樋口先生の指示をよく聞いて編集していました。研究は楽しくなければやってられません、学部3年生の元気なパワーで、とても楽しい本冊ができたと思います。

(鳥谷部輝彦)

初めてのフィールドワークは、何よりもまず楽しかったです。そして、やり方もやる事も分からずでんやわんやでしたが、いろいろな事も学べました。今回メモを担当して痛感したのは、当たり前なことだけある程度知識を頭に入れてから質問しなければ大事な部分を聞きそびれてしまうということ。調査後の整理でもう一度尋ねたいところがぼろぼろとでてきてもどかしかったです。あと、いろいろな人にどんどん話しかけていける自分も再発見でした。もともとそういう所はありましたが、少し、自信になった気がします。メモ魔のわりには抜けた部分の多いメモをとってしまいましたが、今回得た経験を、これから生かしていきたいと思います。

(河内暁子)

2004年度の「日本音楽史演習Ⅰ」では、9月にフィールドワークの実習を行った。音楽のいかなる領域を研究するにも、フィールドワークの体験は、決して無駄にはならないと考える。フィールドワークというと、人里離れた地、深い山中、見渡す限りの砂の平原などを連想するかもしれないが、現代の大都市においても、フィールドワークは可能である。つまり、フィールドは、地球上で人の営みがあれば、場所を選ばないのである。

しかし、フィールドワークも、当然ながら、そのための技術と経験が必要となる。いやそれ以上に、人と人との心の通い合いがベースとなる。このような体験を音楽研究をはじめてほでない学生時代にぜひしてほしいと考え、講義のなかに取り入れた。

授業の一環として行うフィールドワークは制約がある。そのために夏休みに実施し、調査地も都内から簡単に行ける地域を選んでいる。初めての体験にとって、よい調査対象であることも重要である。このような条件を満たす民俗芸能として、埼玉県行田市長野のささら獅子舞を調査させて戴くことにした。

調査ばかりでなく、その後の資料整理もフィールドワークの一環である。後期の授業は、ほとんど資料整理と調査報告の作成についやした。その作業の結果が本調査記録である。受講生全員がフィールドワークとそのまとめに携わり、この冊子がまとめられた。フィールドワークでは、調査させて戴いた伝承者や伝承している地域に調査の成果を戻さねばならない。本報告もその役割を持っている。フィールドワークに関して、これだけの体験をしておけば、自己のテーマによるフィールドワークも可能となろう。卒業論文で、フィールドワークのデータによる論文が作成されることを期待したい。

本年度の「日本音楽史演習Ⅰ」には、つぎにあげる皆さんが受講して、この調査記録を作成した。(○印は、フィールドワーク参加者)

東京芸術大学音楽学部楽理科3年次

河内暁子○ 鈴木亜紗子○ 原納愛○ 柴田真希○ 重田絵美○ 渡部佳子

東京芸術大学大学院音楽研究科後期博士課程

鳥谷部輝彦○

東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業

星野厚子

今回のフィールドワークには、私達のために獅子舞について多くの情報を提供して戴き、長野ささら保存会を紹介して下さった埼玉民俗の会の関孝夫さんと昨年度まで藝大講師をされた蒲生郷昭先生が同行され、指導をして下さった。調査にさいして、長野のささら獅子舞保存会の皆様にはたいへんお世話になった。これらの方々にお礼申し上げたい。

2005年2月

樋口 昭

長野ささら獅子舞調査記録

2005年2月16日発行

編集・発行

東京芸術大学音楽学部「日本音楽史演習Ⅰ」受講生